

文芸OGネットワーク通信



Vol.5

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

共立女子大学文芸メディア研究室内

文芸OGネットワーク 代表 百瀬 好子

Tel/Fax 03-3237-2681

発行 2006.7.15

URL www.kyoranet.or.jp

早稲田大学演劇博物館を訪ねて

劇芸術資料整理室
より

今年の3月、早大の演劇博物館で資料整理の現場を見学させていただいた。演劇関係の資料が保存されている大学は関東では早稲田大学、関西では立命館大学である。



早大の演劇博物館は昭和3年、坪内逍遙の発案と私財により創設された日本で唯一の演劇博物館であり、さまざまな文献や資料が図書館

のように閲覧できるようになっている。プログラムとチラシも収集されており、年代別の仕分けがすむとすぐパソコンにとりこまれ、どの項目からでも検索できるようになっている。アルバイトの学生たちが黙々と作業していた。我々の整理の方法が間違っていないことを改めて確認しほっとする。

おりしも演劇博物館のホールでは、逍遙ゆかりのシェイクスピア展が開催されていた。いつの日か共立女子大学のロビーで、われらの演劇資料の一部を公開できたらという望みを抱いて帰途についた。

この8月で、劇芸術研究室所蔵のプログラムやチラシの整理を始めてから2年が経つ。当初は、うずたかく積み上げられたダンボール箱を前にして途方にくれていた感もあったのだが、乗りかかった船はとにかく前へ進ませねばならない。週2日の整理は手馴れてくると早くなり、10年間分の資料をキャビネットにおさめ、現在は次のキャビネットの搬入を待っているところである。

朗報がある。劇芸術研究室が申請していたこのプロジェクトに、総合文化研究所より予算がおりることになった。3年間で合計900万円である。資料のデータベース化は言うまでもなく、古い紙の保存には酸性化を防ぐ特別の手当てをしなければならず、どれほどお金がかかるかわからない。高松塚古墳とまでは言わないけれど、貴重な資料を保存するこの仕事が大学より認められたということをまず喜びたい。小船から大船に乗り換えた気分である。



平成18年度総会開かる



当日の受付

5月27日(土) 本館303号室
 総会 11:30~12:30
 昼食・懇談 12:30~13:30
 ミニバザー 13:30~15:00
 文芸メディア研究集会(参加自由)
 15:00~16:30

総会次第 (進行 川瀬)
 ◇代表挨拶 百瀬好子
 ◇議長選出
 議題

- 1 17年度活動報告
 - ① 総括 百瀬
 - ② 会報 酒井
 - ③ 資料整理 多田
 - ④ 共立祭 松島
 - ⑤ 文芸サロン講座
- 2 平成17年度収支報告 小林
 会計監査報告 江川・脇田
- 3 本年度活動予定
 - ① 会報の発行
 「文芸OGネットワーク通信」
 5号 平成18年7月
 6号 平成19年2月
 - ② 劇芸術関連の資料整理
 - ③ 共立祭参加
 10月14日・15日
 - ④ 文芸サロン講座
- 4 平成18年度予算案
- 5 質疑応答 その他

平成18年度の総会が5月27日(土)に会員30名出席のもと開催された。劇芸術関連資料整理の地道な活動を中心に、細々とながら、共立祭への参加や会報の年2回発行、さらに17年度から「文芸サロン講座」と銘打ち、年2回各分野から専

門家を招来し、講演を依頼、会員の研鑽の場を呈することになった。第1回は時代小説作家の千野隆司氏による「時代小説を楽しむ」。2回目は立命館大学助教授の江川ひかり氏による『トルココーヒー』と『トルコ風呂』から異文化理解を考える」で充実した時間を堪能した。本年度も9月と19年2月~3月頃に予定しているが、講師も内容も現在のところ未定である。

共立祭は昨年度は創作品展示も多くの方の協力が得られ、会場が狭く、せっかくの作品が生かされなかったのではとの反省のもと、今年は

一人の方の作品に絞って展示をしようと計画中である。八王子校舎からの学生の移動に伴い、参加サークルが急増。企画運営は流動的になる模様。全体テーマは《大和撫子》に決定したそうである。

17年度の収支報告並びに18年度の予算案などすべて、会員の全員一致で承認され、予定時間内に総会は終了した。

平成17年度文芸OGネットワーク会収支決算報告

◎収入の部

(単位:円)

費目	予算	決算	増減	備考
1 16年度繰越金	749,352	749,352	0	
2 17年度会費	400,000	426,000	26,000	213名分
3 雑収入	50,000	246,923	196,923	寄付・総会・文芸サロン・バザー
合計	1,199,352	1,422,275	222,923	

雑収入の内訳:

寄付(7,000円)、総会(34,000円)、文芸サロン(71,000円)、バザー(134,890円)、利息(33円)

◎支出の部

(単位:円)

費目	予算	決算	増減	備考
1 行事費	120,000	154,897	-34,897	共立祭・文芸サロン
2 会報・広報費	150,000	56,668	93,332	年2回の会報・広報 用紙代
3 事務費	50,000	43,428	6,572	用紙・コピー・事務用品
4 会議費	50,000	62,276	-12,276	お茶代・総会補助
5 什器費	10,000	0	10,000	
6 通言費	136,000	96,400	39,600	郵送料
7 渉外費	20,000	10,232	9,768	市川氏一周忌花代・謝礼等
8 予備費	513,352	0	513,352	
9 劇芸術資料整理	150,000	73,230	76,770	交通費補助等
合計	1,199,352	497,131	702,221	

注記:

18年度への繰越金 925,144円 【内訳:普通預金(郵便局)884,795円/現金 40,349円】

【収支決算額(1,422,275円) - 支出決算額(497,131円) = 18年度繰越金(925,144円)】

上記の通り相違ありません。

会計監査 江川 優香里 ㊟

脇田 静子 ㊟

第2回文芸サロン講座



春未だ浅い3月4日、立命館大学文芸学部助教授江川ひかり氏を講師に迎え、「『トルコ・コーヒー』と『トルコ風呂』から異文化理解を考える」と題して、第2回文芸サロン講座が開かれた。

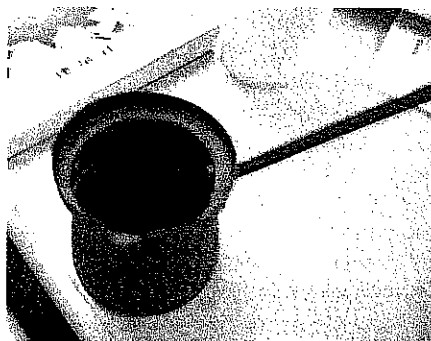
江川氏の、トルコ研究に向けての出発は高校生のころからで、偉大な歴史を持つトルコが、世界史の教科書の中で僅か2～3ページの記述でしかない事に疑問を持ち、以来トルコ研究一筋に歩まれただけに、お話し振りから、トルコに対する並々ならぬ魅力を感じていらっしやるのが我々にも伝わって、一層興味深く聴き入った。

トルコは国土がほぼ日本の倍、人



口は半分である。歴史的には13世紀にオスマン帝国が興り、20世紀初頭の共和国設立までの600年余、この帝国はイスラム世界に君臨した。

もとは6世紀に起こった突厥族が強大になった遊牧騎馬民族である。トルコ語は日本語と同じ文法構造なので親しみやすい。



トルコ・コーヒーは一人分ずつ沸かす。コーヒーハウスは、酒が飲めないイスラム社会では公共的な役

割を果たして、政治結社とも結びついた。しかし国民飲料はチャイであるとのこと。元々コーヒーはイエメンの修行僧が眠らないために飲んだのが最初だとか。

トルコ風呂は日本で言われているのとは違って、サウナであり、ローマの遺跡から学んで一般的になった。最初に男性が入り、暗くなってから女性が子供連れなどで訪れ、そこは社交場であり日常生活に欠かせない娯楽施設だそうである。

コーヒー沸かし器や図版などを見せていただき、身近なところから入ったの異文化のお話は、遠いトルコの国への尽きせぬ興味をかきたてられた。

(昭和32年卒 下郷敦子)

掲 示 板

◎共立祭

10月14日(土)、15日(日)
文芸OGネットワークは今年も参加します。

会場：本館1311号室

展示：仙葉弘子さん(昭和33年卒)の創作陶器

バザー：創作品展示と並行して行います。品物のご提供、ご寄付をいただきたく、皆様のご協力をお願いします。

◎第3回文芸サロン講座

9月に開催を予定しています。テーマ、講師は未定。



平成18年度文芸OGネットワーク予算

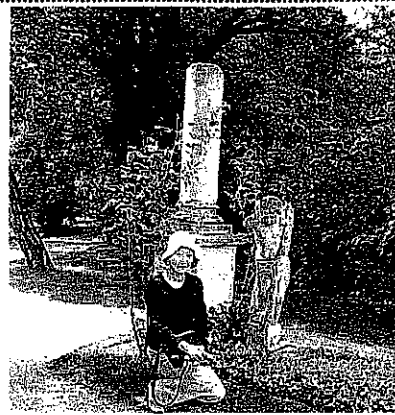
(単位:円)

収 入		支 出		
費目	金額	費目	内容	金額
17年度繰越金	925,144	行事費	共立祭・文芸サロン	170,000
18年度会費	400,000	会報・広報費	年2回発行の会報・広報	100,000
雑収入	200,000	事務費	用紙・コピー代	50,000
		会議費	役員会・総会補助	70,000
		什器費		10,000
		通信費	郵送料他	100,000
		渉外費		20,000
		劇芸術資料整理	雑費	50,000
		予備費		50,000
		繰越金		905,144
合計	1,525,144	合計		1,525,144

※雑収入の内容 ①総会会費 (@1,000円) ②文芸サロン講座 (@1,000円)
③バザー(年2回) ④寄付等

私のモーツァルト

松尾 慶子



ウィーン 聖マルクス墓地にて

思い出してみると、いつも聴いていたのはモーツァルトの音楽だったと思う。勤務先の大阪の社宅で、幼い娘二人にお揃いを着せたくて、たどたどしく洋服を作っていた頃。パン作りに夢中になっていた頃。そこにはいつも音楽が流れていた。天上の音色のように清々しい「フルートとハープの協奏曲」、牧歌的な「ホルン協奏曲」等。だが私はまだモーツァルトの音楽の中に流れている哀しみには気づいていなかった。

1990年に没後200年記念の全16巻の全集が小学館から刊行。全巻手元に揃ったのは3年後の1993年。そこから私は手探りでモーツァルト

の音楽の森に入っていた。コンサートに行ったり、全集の第1冊目、「交響曲」から私なりに何回も聴いたりした。全626曲を聴き終えたのは2003年、10年が過ぎていた。

あの頃から年齢を重ねた私に今まで見えていなかったものが見えてきた。長調の明るさの中にある短調の陰りと晴朗な哀しみ。澄みきった静けさの中にある諦めと受容。

また白水社刊行の全6巻の書簡全集を読む。この全集には現存している394通の手紙が収められ、18世紀に生きた生活者としての、音楽家としてのモーツァルトが等身大となって迫ってくる。わずか35年

の短い生涯、でも各々のジャンルの音楽は、250年の時空を超えて今も独立峰のように燦然と輝いている。

去年プラハからウィーンに旅をした。聖マルクス墓地へ夫とやっとなんて探して辿り着き、薔薇の花を嘆きの天使像に捧げた。小鳥の囀りだけの静けさの中で、モーツァルトさん！あなたは眠っていらっしやるのですね。

(昭和35年卒)

何度チャレンジしたことか……ジム、ダンベル体操、ウォーキング、痩せるクリーム、アミノ酸、サプリメント、食事制限。結局どれも続かない、そしてそれでもあきらめない私なので、懲りずに新しい方法にいつでもアンテナを張っている日々。

しかし、近頃やっと効果があらわれてきたのか、会う人会う人に「ちょっと痩せたんじゃない？」と声をかけてもらえることが多くなった。それと同時に「どうやるの？」と聞かれないことはほとんどない。“年齢”や“性別”、一番驚くのはダイエットとは無縁のような痩身の方まで、それこそ“体重”にかかわらず、多くの方がダイエットに関心を持って生活しているのが垣間見えた。

“セルフプロデュース”とでも言うか、健康的な生活をしたい、旅

共通項はダイエット



石井 藍子

行など身軽に出かけていきたい、お酒落を楽しみたい等、理想像を掲げて自分をそこに近づけたいと思う願望が人を駆り立てているのだろう。ダイエットの情報を載せた上に「自分革命」、「自分探し」、などの言葉が、近頃雑誌の見出しに躍っている。内面を変えていくことが外見に自信を漲らせていくことにもなるが、とりあえず「形」から入って

意識を変革させていこうというの、一つの方法なのかもしれない。自分にはどちらが向いているのか……？ ちなみに私のダイエット法は、毎日プーアル茶を飲みつけたことです。お試しあれ。

(平成15年卒 現在、大学院文芸学研究科演劇学専攻在籍)

編集後記

★今号では総会や文芸サロン講座の様子をお知らせしたが、長野や仙台などから出席された方もあった。地方からも活動にどしどし参加していただきたい。

★OGネットワークのホームページ開設を受けて、第5号から、URLを記載する事になった。会報とあわせて、ご覧いただきたい。(酒)